

ありがとうリスペクトキャンペーン

日本ミニバスケットボール連盟では、今年度から「ありがとうリスペクトキャンペーン」を展開しています。北海道ミニバスケットボール連盟としては、その第一歩として、平成 25 年度夏季交歓大会兼北海道ブロック大会から以下の取り組みをしました。また、来る北海道大会においても同様に取組むことといたします。つきましては、各地区の皆さまにおかれましても趣旨にご理解いただき、本キャンペーンを広げていただけますようお願い申し上げます。

1. ねらい

ミニバスケットボールのゲームを一緒にプレイしてくれる仲間や関係者に対して、いつも感謝の気持ちを持ってプレイすることの大切さと素晴らしさを伝えていく。

2. 理 由

競技登録者数 15 万人の児童が全国各地で数多くの大会やゲームに参加しているが、「暴力根絶に向けて」等の指導文書や都道府県ミニ連からも幾度と無く指導文書が発せられているにもかかわらず、指導者や保護者のトラブルや不祥事が絶えることが無いのも事実である。

多くの児童や指導者は、「友情・ほほえみ・フェアプレー」の精神にのっとり活動している中、ごく一部ではあるが、ゲーム終了後、相手チームの児童に対して感謝の気持ちやありがとうの声をかけられないケースや相手チームの児童に誹謗中傷、蔑むような行為に及ぶことも見受けられる。

勝敗にこだわり、勝てないチームの指導者は良い指導者ではないといった勝利至上主義等、指導者や保護者がジュニアスポーツにおける正しい知識や見識の欠如がこうしたことを引き起こしていると思われる。関係者全員がミニバスケットボール本来の命題である普及・育成活動に邁進することを望み、標記キャンペーンを実施するものとする。

3. 内 容

(1)ゲーム開始の整列時にゲームキャプテンによる審判への握手に続いて、向い会ったプレイヤー同士の握手。

(2)ゲーム終了の整列時に向かい合ったコートプレイヤー同士による握手（「ありがとう」を添えて）。

(3)終了後のベンチスタッフによる相手ベンチスタッフ及び審判への握手（「ありがとう」を添えて）。

※従前からの選手による相手ベンチや応援席への挨拶は、大会規定のとおり時間を要さない範囲での対応となります。

試合中のベンチマナーについて

ベンチスタッフのプレイヤーに対する体罰はもちろん、罵声や暴言、審判に対するクレームに対しては、競技規則を厳密に適用します（次ページ参照）。

ゲーム中、ミスをして一番ショックを受けているのは当人です。プレイが身についていないのであれば指導者の責任ですし、約束事を忘れていたのであれば、思い出させるような指導を心がけるべきです。罵声から「ほほえみ」は生まれません。

試合中の応援マナーについて

審判に対するクレームは試合の進行の妨げになるため、ベンチスタッフに指導し、状況によっては会場から退室していただくこともあります。

プレイヤーに対する罵声、暴言も同様です。

リスペクトキャンペーンの趣旨にご理解いただき、相手チームや審判に感謝し、自チームの児童に労いの言葉と態度をお示してください。

2007～

ミニバスケットボール競技規則 第8章 行為についての規定

第43条 テクニカル・ファウルの原則より

～前略～

コーチがスポーツマンらしくないふるまいをした場合もテクニカル・ファウルが宣せられる。この場合相手チームに2個のフリースローが与えられる。

フリースローが成功してもしなくても、フリースローの後はオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンターラインのアウトでシューター側のチームにスローインのボールが与えられる。

第43条 コーチのテクニカル・ファウル

コーチはマナーの面でもチームの指導者であるべきで、自らも見苦しい言動があってはならない。

コーチが審判、テーブル・オフィシャルズ、相手チーム、自チーム等に対し、失礼な態度で接したり、言動などがあった場合は厳しく罰するべきである。

～後略～

当連盟の主催大会で、マナーに違反する事例があった場合は、当該チーム及び所属地区へ注意又は指導等の処分があります。

参加者全員が「いい大会だったね」と思い出に残るものとなるよう、皆さまのご協力をお願いします。

平成25年10月15日

各 位

北海道ミニバスケットボール連盟

会 長 杉 本 浩